

令和5年度第2回各務原市フレイル予防推進委員会 要旨

日時：令和5年11月24日（金）午後2時00分
場所：市役所本庁舎 4階第4会議室

出席者（敬称略）：岸本 泰樹 池戸 沙季 岩田 道子 青野 和夫 富永 正信 藤井 敦信
坂井 真弓 田中 新樹 松野 陽子 小野 遥加
事務局：小川 晃 宇佐見 謙一 横山 貴普 小林 理恵子 矢橋 茉佑 田中 彩恵
（高齢福祉課）

■進行概要

1.開会あいさつ

- ・各務原市フレイル予防推進委員会傍聴要領

2.検討事項

- ・令和4年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（ハイリスクアプローチ）実績報告

資料 1

3.その他

◎開会

◎各務原市フレイル予防推進委員会傍聴について

事務局より 傍聴について説明

委員からのご質問・ご意見

- ・承認を得る

◎検討事項

令和4年度 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（ハイリスクアプローチ）実績報告

事務局より **資料 1** 糖尿病性腎症重症化予防事業実施報告・その他生活習慣病予防事業実施報告
筋骨格系重症化予防事業・低栄養予防事業の実績について説明

委員からのご質問・ご意見

- ・事業の対象者の方へ訪問に行った際に、対象者の方がフレイルなどの自覚がなくこちらの熱意が通じなかった経験があるが、訪問事業を進める上で有用的な対象者の声などがあれば教えて欲しい。

事務局の回答

→事業対象者の声については、「専門職に継続的に訪問してもらうほど、日常的な困りごとはないです」と聞くことが多い。筋骨格系重症化予防事業で訪問し改善された方は、（運動機能評価項目だけでなく）基本チェックリストの「転倒の不安がなくなった」項目が改善され効果がでている。予防という観点からは、今の生活の中で困りごとがないことのみで判断するのではなく、なぜ事業対象者であるかの背景を伝えていく必要性を、考えたところである。

委員からのご質問・ご意見

・事業に参加される方は元気な方が多い。事業に参加されない方を、どのように参加してもらうかが大切ではないか。ボランティアハウスだけでなく、他でも年1回フレイルチェックを実施する体制にしないと、本当のデータではないと思う。例えば、自治会主催で行うなど検討して欲しい。

事務局の回答

→現在は、ボランティアハウスを中心にフレイルチェックを実施しているが、ボランティアハウスに所属していない市民の方に広く受けていただけるような、機会を設けていく。

委員からのご質問・ご意見

・筋骨格系重症化予防事業について、3か月間の4回の訪問で運動機能評価に効果がでており凄いと思う。似たような事業を他市で行っているが、集団介入での効果はこれほど出ず、個人的に介入し、目標と行動計画を把握しているため良い結果が出ていると感じた。運動機能評価項目以外に、どのような生活目標となる行動計画をPTさんと立案したのか。

・実施した方の変化が素晴らしいので、ご本人の感想とか運動機能改善の効果について、フィードバックすることが必要であると思う。皆さんに知ってもらえるきっかけが増えると良いと思う。

事務局の回答

→生活目標としては、「池の周りを1周する」目標を立案した。

→通いの場フレイルチェックのチラシに、体験した市民の声を掲載し啓発したことがあり、成果とか効果について市民に伝えていくことは必要であると考え。ご指摘どおり、ハイリスクアプローチ事業に関しての成果や効果を伝えることができていないので、今後実施できるように検討していく。

委員の方からのご質問・ご意見

・糖尿病性腎症重症化予防事業について、対象者の方の家族背景（独居か家族同居か）など特徴的なことがあれば、教えて欲しい。

・糖尿病の方は食事や生活習慣が決まっていて、困り感がないことも多いと思う。訪問に行く中で、改善した事例があったと思うので、どのような事例が改善できたのか、改善しなかった事例はどのような場合かを、本市だけではなく他の自治体から聞くなどして、よいシステムができるとよいと思う。

事務局の回答

→高齢福祉課で実施していた令和3年度の印象では、独居の人とか家族世帯であるなど大きな偏りは感じなかった。ただ、後期高齢者の方々のため、夫婦世帯か一人暮らしが多い印象。

→事業を実施する中では、医療機関との連携も取りながら、改善した事例等を振り返り、事業に反映する機会を考える。

委員の方からのご質問・ご意見

・かかりつけの医療機関からフレイルチェックを進めてもらうことはどうか。例えば、筋骨格系重症化予防については、整形外科など各関係する医療機関へ声をかけるのが望ましいと思う。

事務局の回答

→ハイリスクアプローチとフレイルチェック事業については、医師会へ事業内容と実績報告をしており、ご意見をいただいている。地域の医療機関にチラシの設置をお願いすることなど今後検討し、医療機関との連携を図っていけるよう考える。

委員の方からのご質問・ご意見

・後期高齢者の健診の受診率を向上していくことが必要ではないか。例えば、「おめでとう！退職」などと節目時期に、健診のご案内を通知するとかのシステムができるといいと思う。

・会社退職する間際ぐらいの50代ぐらいからこの活動を進めていかないといけないと思う。フレイルになってから教育するのではなく、もっと若い年齢からフレイル予防の取組を普及させていく必要があるのではないか。

・後期高齢者の健診の中に、フレイルチェックを入れたらいいのではないか。例えば、片足立ち上がりなど、健診項目に入れるとフレイルについての確認ができ、本人が実感できるのではないか。

事務局の回答

→会社員で勤めている時は、健診の受診率90%を超えていても、国保の特定健診では40%、後期高齢では、20%になる。今後、健診の啓発についても考えていく必要がある。

→早い時期のフレイル予防は必要だと考えており、今後、高齢者に限らず事業を実施していく必要がある。

→後期高齢者の健診の問診票は、後期高齢者質問票と同じ内容であり、フレイル健診とも呼ばれている。問診以外の部分では、体格や血管の状態についての検査となっていて、フレイルのからだ測定の部分での健診項目の実施はしていないのが現状。

◎その他

事務局より からだ測定「改訂版水飲みテスト（以下MWST）」項目追加の検討報告

・前回の会議で、反復唾液嚥下テスト（以下RSST）の結果で該当者が少ないため、嚥下機能の検査としてMWSTの項目を追加することについて、次回会議までの検討事項としていた。

→健康長寿係で検討した結果を説明し、今後もRSSTの実施を継続し、MWSTは見送ることを提案。

委員の方からのご質問・ご意見

→反対意見なし。MWSTの実施は行わず、今後も継続してRSSTを実施していく。

（午後 3時 5分 終了）